

高万円

日本銀行

AA000000AA

1000000000
SPECIMEN

日本の歴史 ～人物史②～

AA000000AA

10

今日の目標について
歴史から役立つことを
自分で見つけられるようにすること。

1番重要なのは
「考える」トレーニングをすること。

もし自分だったらどうするか？

もし過去に戻れたら何をすれば良かったのか？

今自分にできることは何か？

2024年7月3日（水）に新札に変わりますが、現在の1万円札の人物はどれでしょう。

- A 福沢諭吉
- B 福澤輸吉
- A 複沢諭吉
- C 福澤諭吉



2024年7月3日（水）に新札に変わりますが、現在の1万円札の人物はどれでしょう。

- A 福沢諭吉
- B 福澤輸吉
- A 複沢諭吉
- C 福澤諭吉

教育者。慶應義塾の創設者。

『学問のすゝめ』

…天は人の上に人を造らず
人の下に人を造らず。



現在（2024年上半期）の紙幣まとめ



★福沢諭吉（ふくざわゆきち）

★樋口一葉（ひぐちいちよう）

小説家。『たけくらべ』『にぎりえ』など。

★野口英世（のぐちひでよ）

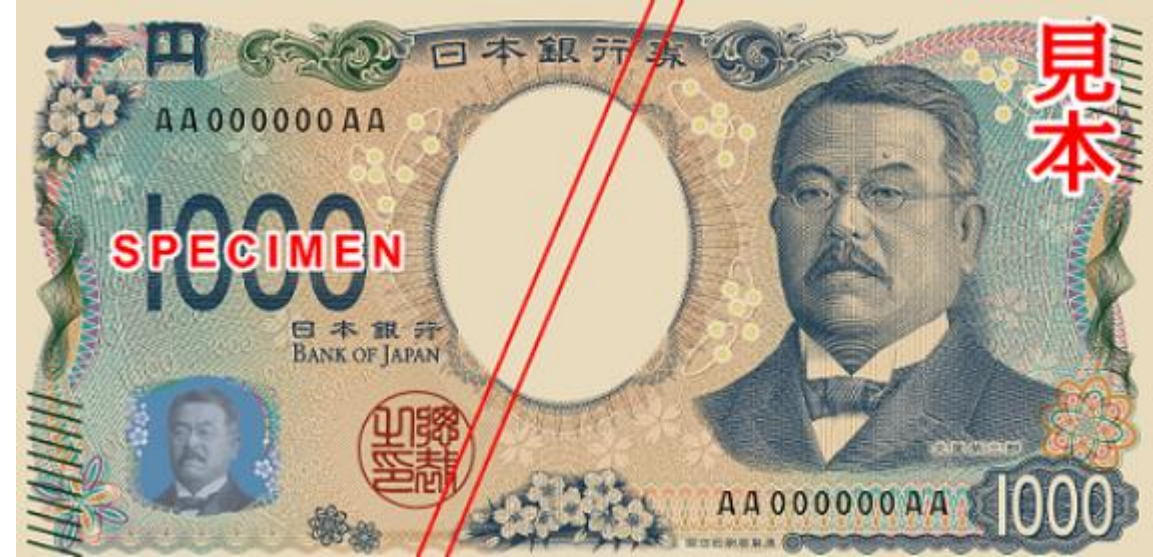
医者。黄熱病や梅毒の研究。

2024年7月3日発行、新しい紙幣まとめ

1千円札：北里柴三郎（きたさと・しばさぶろう）

近代日本医学の父。
破傷風血清療法確立、
ペスト菌の発見。

古事記や万葉集にも登場
古くから親しまれている
花「フジ（藤）」



2024年7月3日発行、新しい紙幣まとめ 5千円札：津田梅子（つだ・うめこ）

女性教育に尽力。
女子英学塾（現：津田塾大学）
を創設。

古事記や万葉集にも登場
古くから親しまれている
花「フジ（藤）」



2024年7月3日発行、新しい紙幣まとめ

1万円札：渋沢栄一（しぶさわ・えいいち）

近代日本経済の父
生涯に約500もの企業の
設立などに関わった。

東京駅（丸の内駅舎）
「赤レンガ駅舎」として
親しまれた歴史的建造物。



人生の分かれ道（ターニングポイント）

15歳のとき

小さいころから、本を読むのが好きで本を読んではばかりいた（父はそれを心配）。

藍の葉をつくったり、藍の葉を買ったりして、染物屋に売る仕事をする農家として生まれる。

ある日、父が藍の買い付けで、信州（長野県）へ行かなければならなくなった。

父はそのとき、栄一に「本を読んではばかりいないで、家の手伝いをしなさい」と言われた。

さて、そう言われた栄一はどうした？

人生の分かれ道（ターニングポイント）

15歳のとき



人生の分かれ道（ターニングポイント）

20歳のとき

御用金（武士がお金に困ったときに農民に払わせたお金のこと。借金のこと。返ってこないことがほとんどだった。）の支払いで、武士に不満を持つようになる。

農民と武士の階級制度。渋沢はどうした？

- 1、仕方がないので我慢して、そのまま一生農民のままだった。
- 2、武士に反乱を起こし、世の中を変えようとした。
- 3、自分が武士となって、世の中を変えようとした。

人生の分かれ道（ターニングポイント）

20歳のとき



人生の分かれ道（ターニングポイント）

24歳のとき

武士への不満から江戸に出ることを決意。

同じ志を持つ仲間に出会い、尊王攘夷運動（武士≠幕府を倒し、天皇の政治を理想とする運動）を計画するが、計画がばれてしまい、京都へ逃げることに。

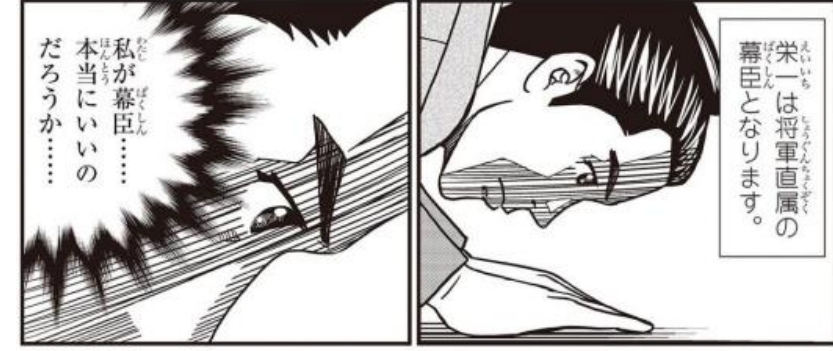
京都で、嫌いだった武士に「幕府のためにも、一橋家に仕えないか」と言われる。

武士になれるチャンスを手に入れた渋沢はどう決断した？



人生の分かれ道（ターニングポイント）

24歳のとき、一橋家に仕えることを決意。



人生の分かれ道（ターニングポイント）

27歳のとき

将軍徳川慶喜の弟・昭武（あきたけ）に従いフランスの
パリ万博に一緒に行くことになった。

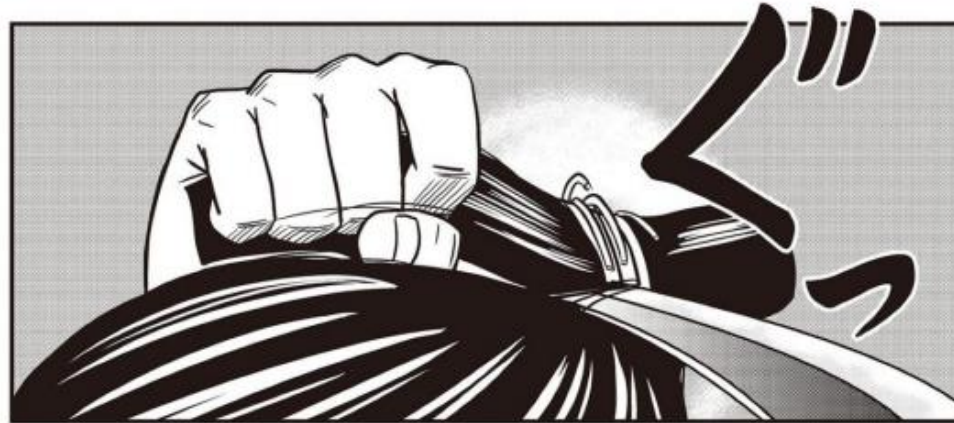
ヨーロッパの社会の仕組みに驚いた渋沢。

ヨーロッパの文化を取り入れる覚悟を決めた渋沢はその
場で何をした？

- 1、江戸時代、武士のみが許された刀を捨てた。
- 2、江戸時代、武士の特権だった名字を捨てた。
- 3、江戸時代、男の威厳だった「まげ」を切った。

人生の分かれ道（ターニングポイント）

27歳のとき、郷に入りては郷に従うことを決意。



人生の分かれ道（ターニングポイント）

29歳のとき

将軍徳川慶喜は大政奉還を行う。江戸幕府の政治が倒れ、明治天皇を中心とする新しい時代へ。

これをヨーロッパで聞いた渋沢は帰国することに。

帰国後、渋沢がやったことは？

- 1、主人である徳川慶喜の敵を討つことを決意。
- 2、武士をやめて、新しい明治政府の一員となった。
- 3、殺されたくないなので、武士をやめて、静かに農民に戻って余生を過ごすことにした。

人生の分かれ道（ターニングポイント）

29歳のとき、新明治政府軍の一員になることを決意。



人生の分かれ道（ターニングポイント）

30歳～実業家として活躍

みずほ銀行、りそな銀行王子ホールディングス、日本製紙IHI、いすゞ自動車、立飛ホールディングス
東京海上日動火災保険、東日本旅客鉄道、東京電力ホールディングス、東洋紡、太平洋セメント
麒麟ホールディングス、サッポロホールディングス、アサヒグループホールディングス
古河機械金属、古河電気工業、富士通、富士電機、横浜ゴム大日本明治製糖、川崎重工業
日本女子大学創立など

渋沢栄一（しぶさわ えいいち）まとめ

★年表

1840年：武蔵国（現在の埼玉県深谷）に農民として生まれる。

1864年：一橋家に仕える

1867年：将軍徳川慶喜の弟・昭武に従いフランスのパリ万博に随行。

1869年：大政奉還を聞いて帰国。銀行を設立。

1870年～1931年

さまざまな会社を立ち上げ、実業界を指導。

渋沢栄一（しぶさわ えいいち）の言葉

道理に従って生きること
で
繁栄につながっていく。
道徳と経済は一致。

